

協定校留学報告書

記入日	2021年3月
所属	人文社会科学部
学年	3
留学先大学	台湾・静宜大学
留学開始・終了時期	2020年2月～2021年1月（留学開始時期 2年次） （12カ月）

1. 留学前について

① 海外留学しようと思った理由は何ですか
<p>大学生を送るにあたり、環境に変化が欲しいと思ったから。また、これまで経験したことの無いことをしてみたいと考えたときに思い浮かんだのが国外での長期にわたる生活、海外留学だったから。</p>
② この協定校に決めた理由を教えてください。
<p>台湾で繁体字中国語を学びたいと思ったから。 休学して留学するのではなく、協定校にすることで卒業年を延ばさなくてよいことから協定校を希望しており、希望留学先の台湾に該当するのが静宜大学であったため。</p>
③ TOEFL の受験対策など、語学の準備はどのようにしましたか。
<p>留学前に言語関連の検定を受験はしたことはありませんでしたが、自分で教材を見たり、映画等を視聴したことはありました。日頃から中国語に触れる機会を増やすよう心がけていました。</p>
④ 単位や教職、就職活動等に関して、留学前にしておいたほうが良いことがあれば教えてください。
<p>留学前にできる限り単位を取得しておくことをお勧めします。また、大まかに帰国後の履修計画を立てておくの良いと思います。</p>
⑤ どのような保険に加入しましたか。（ ）に○をつけてください。
<p>a. 留学先大学が指定した保険（ ○ ） b. 個人の保険のみ（ ） c. 大学指定の保険と個人保険の両方（ ）</p>
⑥ 予防接種は必要でしたか。（ ）に○をつけてください。
<p>a. はい（ ） 具体的に： b. いいえ（ ○ ） 麻疹風疹等、過去に受けた予防接種を証明する書類作成は必要です（私の場合は過去に受けていたため留学準備として接種をしたものはなかったです。）</p>

2. 留学先での勉強について

① 留学先で履修した科目名、時間数、授業内容についてなるべく詳しく教えてください。

【華語課程】(週 15 時間もしくは週 10 時間 選択可能)

週 15 時間(1 日 3 時間)の外国籍学生向けの中国語の授業。大学に併設されている華語センターが開講している。難易度別にクラス分けがされる。

中国語のみで中国語の語法の解説、中国語での討論・発表を頻繁に行います。教科書のみならず、政治、文化、時事問題、クラスメイトの出身国についても取り扱う。

交換留学生だけではなくこの語学センターの学生もいるため、一緒に授業を受ける。交換留学生は留学先大学の学年暦に合わせて履修するが希望すれば長期休暇中も参加可能である。

【台湾民俗文化概論】

週 2 時間、台湾文学学科の台湾民俗文化についての授業。使用言語は中国語と台湾語。

媽祖、民俗信仰、歳時節、節句など幅広く取り扱う。筆記試験、レポート課題がある。

【台湾日文資料導讀】

週 2 時間、日本語学科の授業。昔の日本語の資料を読み解く。日本語から中国語への翻訳も行う。使用言語は中国語と日本語。

日本統治時代の台湾について日本語で記された歴史的な資料を読み、解説を行う。政治経済、産業、文化、地誌、学問の発展及び累積について知ることができる。小グループに分かれた発表、個人での翻訳の課題提出がある。

【台湾文史観光概論】

週 2 時間、台湾文学学科の文学歴史観光についての授業。使用言語は中国語。

歴史及び文学に関連する観光について学ぶことができる。伝統産業の観光工場、原住民文化に関する施設やテーマパーク、老街(昔ながらの古い町並み)、文学館、博物館、偉人館、その他歴史的建造物などがある。授業で紹介されるもののほかに、自分で文学や歴史に関する観光地紹介の動画等資料を提出する小課題がある。また、小グループでの討論、発表、現地調査、レポート作成を行う。個人でのレポート作成もあり、自分のテーマとした場所での現地調査、写真撮影が求められる。

【進階文書處理】

週 2 時間、学部共通科目で、Word の上級レベルの使い方について講義される。使用言語は中国語。ICDL(Word の検定)の合格が単位認定要件である。試験での言語も中国語。

【華人社會與文化】

週 2 時間、グローバル外国語教育学科の授業。使用言語は中国語。

台湾(華人)の社会と文化について幅広く取り扱う。主に将来中国語の教師志望の台湾人の学生が履修する。歴史、台湾芸術、民間信仰、宗教文化、禁忌、飲食文化、節句、中国戯曲、中国医学などについて学ぶ。小グループに分かれての発表、個人でのレポート作成、期末の筆記試験がある。

【日本地理】

週 2 時間、日本語学科の授業。使用言語は日本語と中国語。

日本について地図に沿って詳細に解説がなされる。北海道地方、東北地方、関東地方、北陸地方、

東海地方、近畿地方、関西地方、中国・四国地方、九州・沖縄地方、それぞれの産業、文化、気候、歴史などについて議論する。中間、期末、2回の試験がある。

(1 コマ 50 分を 2 コマ連続で行う講義が多かったです。間の休憩は 10 分間です。これを週 2 時間と書きました。週に一回 2 コマ連続を学期を通して受講するものが 2 単位とされていました。)

② 授業履修の際に、注意したほうがいいことがあれば、なるべく具体的に教えてください。

履修できるのは 1 学期につき 22 単位までです。22 単位を超える場合には、追加で学費を納めれば受講することができます。

履修登録はオンライン上でのみ行われます。学年によって履修申告期間が異なるので日程の確認は注意が必要です。交換留学生は 1 年次生と同じ日程でした。また、多くの授業で抽選が行われるため、すべて思い通りに履修するのは難しいかもしれません。前もってシラバスを検討し、どの授業の抽選に希望を出すのか決めておくといいと思います。

抽選期間と、先着順の履修登録期間の 2 段階があるのですが、抽選でほとんどの人数が埋まります。先着順の場合は当日の朝 8 時にインターネットを繋げて登録開始と同時に入力する準備をすることもあります。

授業は学部学科を問わず選択ができるので選択肢が多いのですが、語学力によっては選択肢が狭まってしまう可能性があります。体育はかなりの種目があるので、言葉に自信がなくても体を動かすことに興味があり、単位数に余裕があれば、挑戦してみる価値がありそうです。また、英語で開講されている授業には、経済関連、会計学、国際企業、マーケティングなどがあるので、自分の興味のある分野の授業を学校のホームページなどから調べてみてください。

③ 授業に関して、困ったこと、うまくいったこと、努力したことなど、教えてください。

台湾人学生たちの学部生向けの授業と一緒に参加したので、同じ量の課題をこなすのは少し時間がかかることもありました。グループワークが必要な授業に参加した際には、グループの人としっかりコミュニケーションをとることを心掛けました。

受講をする際の心積もりとしては基本的に日本で授業を受けるときと同じだと思います。それに加えて、言語能力に差がある分の努力をすることと、周りから得られるもの、他者の考え方を知り、それに対して自分の考えを持つ、ということはより意識的に取り組むべき課題だと考えていました。

3. 留学先での生活について

① 大学がある町やキャンパスの雰囲気はどうでしたか

大学のある台中市は、治安がよく、過ごしやすかったです。駅や市街地といった中心部からは少し離れていたところにありますが、バスの本数が非常に多く、乗車したバス停から 10 km 以内は無料で利用できるため、利便性が高いと思います。場所によってはバイクの交通量も多いので注意が必要だと思います。

大学の敷地はとても広いという印象を持ちました。高低差があるため坂道や階段を通ることが多

く、移動は少し時間がかかるかもしれませんが、緑あふれる敷地内で過ごしやすかったです。食堂は敷地内に3か所あり、学校の敷地内だけでも食事の選択肢はとても多かったです。それぞれの食堂はフードコートの様になっており、1か所の食堂でも何度も楽しめると思います。

中でも印象深いのが図書館でした。ビル一棟が図書館となっており、地下二階、地上十階建てで蔵書数が非常に多く、いくつもの言語の書籍がありました。日本語の本もたくさん置かれています。書籍のみならず、視聴覚資料も多数揃っています。椅子、机、ソファ、討論室、自習室などの設備も充実していました。

② 留学中はどこに住んでいましたか。

- a. 寮 () : 何人部屋でしたか (4人)
- b. アパート () : 何人部屋でしたか (人)
- c. ホームステイ () : 何人部屋でしたか (人)
- d. その他 () 具体的に :

③ 住環境はどうでしたか。

学校の敷地内の学生寮に住んでいたのですが、教室へのアクセスが良く便利でした。建物内にはウォーターサーバー、飲料自販機、軽食自販機がありました。部屋は2~4人部屋で、どの人数の部屋にするのか希望を出すことができます。

留学生専用の寮ではないので台湾人の学生と一緒に部屋に住むことができ、とてもいい経験になりました。ルームメイトの希望を申請することも可能なので、日本人と住むこともできます。

④ 食事はどうしましたか。

- a. 大学・寮のミールプラン ()
- b. 主に外食 ()
- c. 自炊と外食が半々程度 ()
- d. その他 () 具体的に :

⑤ 留学先で他の留学生や現地学生とどのように交流を深めましたか。

留学生向けの説明会や交流会、日帰りツアーなどイベントが沢山あるので、他の留学生と交流する機会は多かったです。また、外国籍学生向けの中国語の授業は基本的に毎日あるので、そこでは他の留学生と同じ時間を共に過ごすことができ良い経験になりました。

チューター制度があり、日本人の交換留学生には一人につき一人の日本語学科の台湾の学生がチューターとしてついてくださり、相談相手になってくれたり、一緒に食事に行ったり、お出かけをするということがありました。またその他の現地学生ともイベントや授業を通して、知り合うことができ、交流を深めることができました。

また、寮でのルームメイトとの交流もありました。

その他には、授業で台湾人の学生と知り合いました。授業でのグループワークと一緒に取り組むことで次第に仲良くなり、休日に観光案内をしてくれたり、一緒に買い物やカフェに行ったり、一緒にご飯を食べに行くこともよくありました。

多くの人たちの優しさに恵まれた環境であったと思います。

6. 留学について

① 留学を終えての感想を教えてください。

一年間の留学は終えてみるととても短く感じました。簡単にあきらめずに挑戦することを目標の一つとして過ごしていたので、様々なことに取り組み、日本ではできない多くの経験ができたと思います。しかし、それと同時に自分の出来なさに落ち込むこともありました。留学期間にたくさんの人に知り合い、刺激を受けることができたことがすごく良かったなと思います。自分もまだまだ頑張らなくてはいけないと考える機会となりました。

② 留学して、何が変わったと思いますか。

中国語の能力を向上させることができました。より多くの人と通訳を介さずコミュニケーションが取れることをうれしく思うとともに、自分の武器を増やすことができたようにも思います。

また、将来への選択肢として自分の知らなかったもの或いは考えたことのなかったものに気が付くことができ、自分の将来への考え方も変わりました。日本で暮らしていただくだけではなくもっとたくさんの選択肢があるので、その可能性を自分で広げられるようもっと努力していきたいと思うようになりました。

③ 留学を考えている人へのメッセージをお願いします。

留学中の過ごし方や目標について考える際に情報収集は大切なことだと思います。そのために、今私の体験談に目を通してくださったと思うのですが、あくまでもこれはほんの一例です。少しでも参考になれば嬉しいのですが、どれほど参考になるか分かりません。また、留学報告会や説明会だけでは分からないことがあると思います。そういった場合にはぜひ国際交流課の方に問い合わせると良いと思います。留学の際に必要な保険加入の情報など学業以外のことも知っておくべきです。とても丁寧に対応してくださいませ。

自分で積極的に行動して、頑張ってみてください。うまくいってもいなくても無駄にはならないと思います。